

【舗装種別の選定】

- ・1  舗装種別選定に必要な情報を収集したか
- ・2  舗装種別選定実施区間を設定したか
- ・3  実現可能な舗装種別をスクリーニングしたか
- ・4  LCC等の観点から評価し舗装種別を選定したか

【設計条件】

- ・5  道路の区分は適正か
- ・6  舗装区分を確認したか
- ・7  舗装の設計期間は適正か
- ・8  路線の計画交通量は適正か
- ・9  舗装計画交通量は適正か
- ・10  舗装の性能指標は適正か
  - ・疲労破壊輪数
  - ・塑性変形輪数
- ・11  信頼性(信頼度)を確認したか
- ・12  CBR試験は実施しているか
- ・13  設計CBR値は適正か
- ・14  同一舗装の最小延長を確認したか
- ・15  支障物件(地下)は把握しているか

【路面設計】

- ・16  路面の要求性能を整理したか
- ・17  舗装種別(アスファルト、コンクリート等)は明確になっているか
- ・18  排水性舗装の採用にあたっては、適用性を確認したか
- ・19  表層厚は適正か
- ・20  舗装機能(滑り止め舗装、騒音低減機能等)は必要か

【アスファルト舗装の構造設計】

- ・21  T<sub>A</sub>の設定は適正か
- ・22  各層の使用材料は適正か
- ・23  再生材の使用は考慮されているか
- ・24  表層と基層を加えた最小厚さは基準値を満足するか
- ・25  路盤各層の最小厚さは基準値を満足するか
- ・26  目標とするTAは満足しているか
- ・27  経済的な断面か
- ・28  重交通道路における耐流動対策を検討しているか
- ・29  舗装端部・路肩部の舗装構造は適正か

【コンクリート舗装の構造設計】

- ・30  コンクリート舗装の種類は適正か
- ・31  路盤構成及び路盤材は適正か
- ・32  路盤厚は適正か
- ・33  コンクリート版の版厚は適正か
- ・34  目地間隔は適正か

【路床】

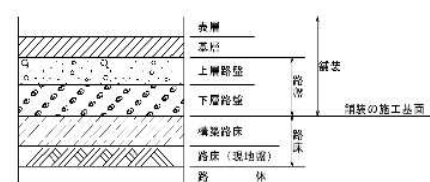
- ・35  構築路床を設ける必要があるか
- ・36  構築路床改良の工法選定は適正か
- ・37  凍上抑制層の必要性は整理されているか

【その他】

- ・38  歩道舗装の構造は適正か
- ・39  歩道舗装の舗装厚は適正か
- ・40  橋梁舗装の選定で橋種を確認したか
- ・41  橋面舗装(車道、歩道)の舗装構成は適正か

車道の舗装

アスファルト舗装の基本的な構成

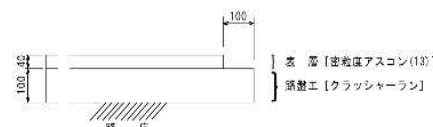


コンクリート舗装の基本的な構成



歩道等の舗装

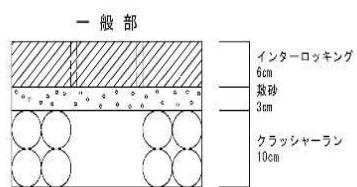
一般的なアスファルト舗装



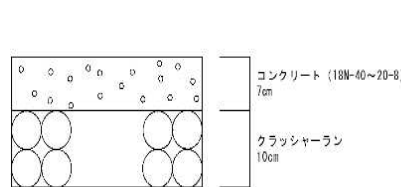
透水性舗装



インターロッキング舗装

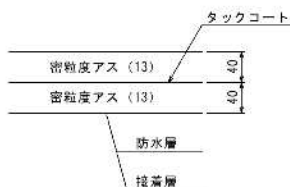


コンクリート舗装



橋面舗装 (車道部)

コンクリート床版



鋼床版



[参考文献] 舗装設計施工指針(平成18年度版)／H18.2／(公社)日本道路協会

[参考文献] 舗装設計便覧／H18.2／(公社)日本道路協会

[参考文献] 舗装施工便覧(平成18年度版)／H18.2／(公社)日本道路協会

[参考文献] 舗装種別選定の手引き／R3.12／(公社)日本道路協会 舗装委員会 舗装マネジメント小委員会

項目	確認	確認日	確認資料・チェック結果
照査項目番号	照査項目に✓を記入	確認した日付を記入	確認できる資料の名称、頁等を記入、チェック結果を簡潔に記入 (例: 関連基準類、過年度成果の該当項目、妥当性判断等の根拠等)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			
33			
34			
35			
36			
37			
38			
39			
40			
41			

項目	No	チェック項目	留意点など	
舗装種別の選定	1	舗装種別選定に必要な情報を収集したか	・舗装種別選定に必要な情報として、事業特性、交通条件、地盤情報、道路構造物等、騒音等、施工、今後の維持管理などに関する情報を収集する。情報収集にあたっては、「舗装種別選定チェックシート」を用いて、確認するとよい。(舗種P4)	
	2	舗装種別選定実施区間を設定したか	・交通条件、地盤条件や道路構造物条件(トンネル、橋梁等)、騒音等に関わる情報などに着目し、舗装種別選定を実施する区間を設定する。(舗種P8)	
	3	実現可能な舗装種別をスクリーニングしたか	・施工の実施可能性や、舗装の合理的な維持管理の可能性、舗装のニーズ、新技術への対応などに着目し、当該箇所でも実現可能な舗装種別の抽出(スクリーニング)を行う。スクリーニングにあたっては、「スクリーニングのイメージ事例」(舗種P13)を参考に、スクリーニング判定を行うとよい。(舗種P8)	
	4	LCC等の観点から評価し舗装種別を選定したか	・スクリーニングにより抽出した舗装種別に対し、経済性(LCC)やスクリーニング項目(留意事項等にあるもの)などから、総合評価し舗装種別を選定する。選定にあたっては、「評価イメージ例」を参考にするとよい。(舗種P15)	
設計条件	5	道路の区分は適正か	・道路の種級区分や通行できる車両の違いで設定する普通道路・小型道路の区分を確認する(交通荷重等の舗装設計条件が異なる)。(舗設便P14)	
	6	舗装区分を確認したか	・本線、ランプ、取付道路など設計する道路の位置づけを確認し、位置づけが異なる場合は舗装区分(切り替え位置)を確認する。(九地整設計要領P道1-140)	
	7	舗装の設計期間は適正か	・路面の設計期間及び舗装の設計期間を確認する。(舗設便P24)	
	8	路線の計画交通量は適正か	・舗装計画交通量を算定するため、路線の計画交通量の条件(計画交通量、重方向率、大型車混入率)を確認する。	
	9	舗装計画交通量は適正か	・道路の区分に基づき対象車両を設定し、舗装の設計期間内の対象車両の平均的な交通量を算定し、交通量区分を設定する。(舗設便P26)	
	10	舗装の性能指標は適正か	・設計対象となる道路の舗装の性能指標として、疲労破壊輪数、塑性変形輪数等を設定する。(舗設便P27)	
		・疲労破壊輪数	・交通量区分と舗装計画交通量に基づき、疲労破壊輪数を設定する。(舗設便P29)	
		・塑性変形輪数	・道路の種級区分と舗装計画交通量に基づき、塑性変形輪数を設定する。(舗設便P31)	
	11	信頼性(信頼度)を確認したか	・舗装の信頼性を確認する。信頼性は、道路管理者への確認か、路線別にサービスペルや舗装の疲労破壊の与える影響で設定する。(舗設便P33)	
	12	CBR試験は実施しているか	・設計CBRを設定するために必要なCBR試験が過去に実施されているかを確認する。	
	13	設計CBR値は適正か	・CBR試験の結果より、区間のCBRと設計CBRを定める。設計CBRを設定する手順は、「路床の設計手順」のフローに基づき設計するとよい。(舗設便P69)	
	14	同一舗装の最小延長を確認したか	・施工性などを考慮し最小200mの区間は同一舗装構成とすることが望ましい。(舗設便P71)	
	15	支障物件(地下)は把握しているか	・舗装設計として考慮すべき地下埋設物(例:上下水道、電線共同溝、情報BOX)や横断構造物の有無を整理する。	
	路面設計	16	路面の要求性能を整理したか	・安全性や快適性に係る性能や環境に係わる性能から路面に要求される性能を整理する。(舗設便P40)
		17	舗装種別(アスファルト、コンクリート等)は明確になっているか	・「舗装種別の選定」に基づき、材料分類としてアスファルト系材料かセメント系材料を選定する。(舗設便P45)
18		排水性舗装の採用にあたっては、適用性を確認したか	・排水性舗装は、その特性から空隙のつまりが予想される区間や耐久性・耐流動性が求められる区間では適用しない場合が多いため、山間部や積雪寒冷地、トンネル内等については、個別に検討する必要がある。	
19		表層厚は適正か	・アスファルト系材料(混合物型)を用いる場合の表層厚は、施工において確実に路面の性能を確保するため、最大粒径の2.5倍程度以上の厚さを目安として確保できているか確認する。(舗設便P47)	
20		舗装機能(滑り止め舗装、騒音低減機能等)は必要か	・道路平面縦断線形や地域特性を考慮して、適切な舗装機能を提案する。	
アスファルト舗装の構造設計 (経験に基づく設計方法であるTA法)	21	T <sub>A</sub> の設定は適正か	・信頼度別に設定された計算式に基づき、路床の設計CBRと疲労破壊輪数からT <sub>A</sub> (必要等値換算厚)を設定する。(舗設便P75)	
	22	各層の使用材料は適正か	・交通条件、材料入手の難易度、施工時の制約条件、経済性、地域性、隣接工区の使用状況などを総合的に考慮して使用材料を選定する。(舗設便P83)	
	23	再生材の使用は考慮されているか	・材料選定時には、再生材の利用が考慮されているかを確認する。その際、地域によって流通している再生材が異なる点を考慮する必要がある。	
	24	表層と基層を加えた最小厚さは基準値を満足するか	・表層と基層を加えた最小厚さは、交通量区分と舗装計画交通量に基づき基準値を設定している。基準値を満足するか確認する必要がある。(舗設便P76)	
	25	路盤各層の最小厚さは基準値を満足するか	・路盤各層の最小厚さは、工法・材料別に基準値を設定している。基準値を満足するか確認する必要がある。(舗設便P76)	
	26	目標とするTAは満足しているか	・舗装各層の材料と厚さで求められるTA'(等値換算厚)が目標TAより大きいことを確認する。(舗設便P82)	
	27	経済的な断面か	・複数の舗装構成の組合せが考えられる場合は、経済比較を行い、舗装構成を決定する。	
	28	重交通道路における耐流動対策を検討しているか	大型車交通量の多い道路(舗装計画交通量が1,000台/日・方向以上)、交差点内及び交差点流入部等のわだち掘れが予想される区間では、耐流動性を向上させた混合物を表層または表層・基層に使用することを検討する。	
	29	舗装端部・路肩部の舗装構造は適正か	・路肩舗装の有無、路肩or非常駐車帯での切り替え位置、構造物の有無(排水構造物や舗装止め)を整理し、端部処理を確認する。	
コンクリート舗装の構造設計 (経験に基づく設計方法)	30	コンクリート舗装の種類は適正か	・普通コンクリート舗装、連続鉄筋コンクリート舗装、転圧コンクリート舗装から選定する。(舗設便P145)	
	31	路盤構成及び路盤材は適正か	・舗装計画交通量、路床の設計CBRを基に路盤を設定する。コンクリート舗装の路盤材の選定にあたっては、「一般的な路盤材の種類と適用例」を参考にするとよい。(舗設便P150)	
	32	路盤厚は適正か	・交通量区分・舗装計画交通量と路床の設計CBRに基づき設定した必要最小厚以上を確保しているか確認する。(舗設便P154)	
	33	コンクリート版の版厚は適正か	・コンクリート舗装の種類と舗装計画交通量、路床の設計CBRを基にコンクリート版厚を設定する。(舗設便P157)	
	34	目地間隔は適正か	・普通コンクリート舗装、転圧コンクリート舗装の場合は目地間隔の規定値を確認する。(舗設便P194)	
路床	35	構築路床を設ける必要があるか	・路床の設計CBRが3未満の場合、舗装の仕上がり高さが制限される場合、路床を改良した方が経済的な場合等は、構築路床の検討を行う。(舗設便P72)	
	36	構築路床改良の工法選定は適正か	・置換工法、安定処理工法、サンドイッチ舗装工法等から比較検討等により工法選定を行う。(九地整設計要領P道1-175)	
	37	凍上抑制層の必要性は整理されているか	・「寒冷地における舗装は、路床土の凍結融解の影響により破損することがあるので、その対策が必要」とされている。日平均気温等から凍結期間が発生するかを確認し、凍上抑制層の必要性を整理する。凍結指数の算定は、「n年確率凍結指数の推定方法」を参考にするとよい。(舗設便P276)	
その他	38	歩道舗装の構造は適正か	・歩道舗装は、地域や路線として要求される性能に見合ったものを選定する。代表的な例としては、アスファルト舗装、透水性舗装、インターロッキング舗装、コンクリート舗装等がある。(舗設便P244)	
	39	歩道舗装の舗装厚は適正か	・歩道舗装の表層、路盤の舗装厚は基準等の根拠が明確となっているか確認する必要がある。また、フィルター層や敷砂等を適切に敷設していることを確認する必要がある。(舗設便P245)	
	40	橋梁舗装の選定で橋種を確認したか	・橋梁部の場合、コンクリート床版と鋼床版で舗装構成が異なるため、橋種を確認する必要がある。(舗設便P221)	
	41	橋面舗装(車道、歩道)の舗装構成は適正か	・車道部、歩道部共に舗装厚・舗装構成は基準等の根拠が明確となっているか確認する必要がある。また、防水層が適切に敷設していることを確認する。	

舗指針PO: 舗装設計施工指針(平成18年度版) / H18.2 / (公社)日本道路協会

舗設便PO: 舗装設計便覧 / H18.2 / (公社)日本道路協会

舗施便PO: 舗装施工便覧(平成18年度版) / H18.2 / (公社)日本道路協会

舗種PO: 舗装種別選定の手引き / R3.12 / (公社)日本道路協会 舗装委員会 舗装マネジメント小委員会